

白川茶の伝統・文化の継続に貢献する魅力体験ツーリズムの提案

岐阜大学 地盤・地下水研究室

1. はじめに

岐阜県の特産品である白川茶は、約 450 年の長い歴史と伝統をもち高い香気など特徴あるブランドとして構築されてきた。しかしながら、過疎化や少子高齢化が影響して茶葉生産農家の後継者確保が課題になっていて、茶園の荒廃がみられるなど、そのブランド力の低下が懸念されている。

事業の全体構想は、特に担い手となる若年層を対象に、白川茶への関心を高め、次いで、共感、愛着・定着につなぐ方法を究明することによって、後継者不足の課題の解決（農家・農業再生）に寄与するものである。平成 27 年度には、岐阜大学学生グループが主体となって、岐阜大学内で採取する地下水を用いた白川番茶によるペットボトル飲料の商品「やさ茶」が開発・販売され、白川茶に関心を高めるきっかけづくりが行われた。本事業（平成 28 年度）では、白川茶に対する共感を得る方法として、その魅力を伝え理解を深めるための効果的なツーリズム（体験学習）を検討した。

2. メンバー構成

本年度の事業は、次のメンバー 8 名で遂行した。

岐阜大学工学部：井上やおき・田中ゆい・佐藤拓也・中野雄太，岐阜大学応用生物科学部：森明日香，岐阜大学教育学研究科：加藤司，岐阜大学教育学部：三輪圭司，岐阜大学地域科学部：藤井真奈美

3. 白川茶園観光マップ

(1) 魅力となる素材の整理

観光マップ作成のため、主に佐藤・中野・藤井が白川町の魅力となる素材を調査した。その方法として、白川町近辺に住む学生へのヒアリングや、白川町役場のホームページなどを閲覧した。その収集した素材の中で、一際魅力的な素材が、茶園である。白川町で茶園を見上げた風景は、雄大で趣がある（写真 1 参照）。また、一つ一つ形の違う石が整然と積まれて形成された石積みは、茶園を支えるだけでなく、白川町の日本の古き良き景観を形作る一つの魅力となっている。



写真 1 茶園の風景

(2) 観光マップの作成

白川茶観光マップの作成は、主に加藤・田中が担当した。白川茶観光マップには「手作り感のある親しみやすい絵」というコンセプトがあった。そのため、マップ作成は全て手描きによって仕上げられた。また、白川町の魅力を簡潔かつ最大限伝えるため、色合いや、観光ポイントに番号を振り、マップ外に簡単な説明を加えるなどの工夫をした。そして、図 1 のような素晴らしいマップに仕上がった。

3. 体験ツーリズム

(1) 企画内容

以下の項目を主要なポイントとして白川茶の体験ツーリズムを企画した。

- ・茶園見学：日本特有な茶園の景観の素晴らしさを伝える。
- ・茶摘み体験：日本茶が出来上がるまでの工程を知るために行う。体験することで、茶園農家の大変さや楽しさを肌で感じる。

- ・お茶淹れ体験：「急須で淹れたお茶」の味わいの素晴らしさや、お湯の温度などによる味わいの違いを体験し、日本茶の文化の伝統を伝える。

① 飛水山峡

白川町から七泉町へ渡る峡谷。飛水峡の断崖群は天然記念物に指定されました。

② 美濃白川ピクニック

豊富な特産品を販売し、新茶の時期(5月)には、新茶まつりを開催しています。

③ 石積み

宇津尾の茶園に至る道には、美しい石積みが見られます。

④ 茶園

山々に囲まれた広大な茶園が、茶摘み体験をお楽しみください。

⑤ 加工場

白川茶の加工を行います。昭和59年に、天皇陛下にお茶を献上しました。



図 1 白川茶観光マップ

(2) 試行

H28/10/15(土)にツアーを試行した。参加者は岐阜大学生8名と引率教員2名の計10名である。学生の中には、茶園を見るのが初めての人や、急須でのお茶淹れや茶摘みが初体験の人もおり、楽しんだ(写真2参照)。

(3) アンケート分析

試行したツアーには、参加者の感想や今後の課題把握のためにアンケートを実施した。以下は「今回の旅の一番満足した点を教えてください」という質問の回答である。

- ・お茶の摘み方や淹れ方を知れたこと。
- ・茶園など、体験だけでなく人と話げできたこと。

これらの感想は、この体験ツアーの趣旨に沿うものであり、満足のいく結果となった。

一方で、日本茶の文化を知らない人が多く存在するという事実が確認されたため、今回のような活動を続けていく必要があると感じた。



写真 2 茶摘み体験

4. おわりに

今回試行したツアーの参加者は学生であったため、今後親子連れなどの方々にも参加していただき、幅広い年齢層の方々の意見を聞き、今後も白川町の魅力を伝える計画である。なお、本事業の成果は、国土交通省・水の里応援プロジェクトの「水の里の旅コンテスト」に応募した。